



熊谷次郎直実の像（熊谷駅前）

第 106 号

発行所

埼玉県熊谷市須賀広 784 番地
 一般社団法人 埼玉県畜産会
 〒360-0102
 TEL 048-536-5281
 FAX 048-539-1011

発行人

根 岸 信 一 郎

印刷所

ポプラ社印刷株式会社
 深谷市人見242-3
 TEL 048(572)9415



彩の国さいたま

目 次

1	会長就任の御挨拶 (一社) 埼玉県畜産会会長 根 岸 信 一 郎	2
2	埼玉県農林部長就任の御挨拶 埼玉県農林部長 強 瀬 道 男	3
3	畜産安全課長就任の御挨拶 埼玉県農林部畜産安全課長 野 澤 裕 子	4
4	事業報告	
	(1) 一般社団法人埼玉県畜産会第65回通常総会開催される	5
	(2) 新会長選任の令和2年度臨時総会開催される	6
	(3) 令和2年度主要事業の概要・令和元年度主要事業の実施概要	7
5	埼玉県からのお知らせ	
	(1) 新型コロナウイルス感染症感染防止策の定着に向けた取組について (畜産安全課)	15
	(2) 「埼玉県LINEコロナお知らせシステム」の登録について (県民生活部)	16
	(3) 家畜保健衛生所だより 野生いのししの豚熱 (CSF) 検査体制について (川越家保)	18
6	今後のイベント情報	19
	(1) 第56回埼玉県乳牛共進会等について	
	(2) 埼玉県養豚協会豚枝肉共進会について	
	(3) 埼玉県はちみつ品評会、即売会	
	(4) 家畜防疫演習について	
	(5) 畜産物消費促進活動について 「2020彩の国食と農林業ドリームフェスタ」(おいしさいっぱい畜産フェア同時開催)	
7	埼玉県畜産関係幹部職員名簿	20
8	一般社団法人県畜産会役員名簿	21
9	(一社) 埼玉県畜産会事務分掌表	22
10	編集後記	23
11	2020年度 南関東地方競馬開催日程 (8月以降)	裏表紙



会長就任の御挨拶

埼玉県畜産会長
根岸 信一郎

この度、令和2年8月6日に開催されました臨時総会におきまして、会長を仰せつかりました根岸信一郎でございます。日頃から畜産会の運営に対しまして、格別の御理解と御支援を賜っておりまして、心からお礼を申し上げます。

退任されました坂本前会長におかれましては、平成29年8月に就任されてからの3年間に、TPP（環太平洋経済連携協定）や日EU・EPAの締結などによります関税の引き下げへの対応のため、畜産農家の経営改善の支援を積極的に推進されました。

また、令和元年9月から11月にかけて県内で5件のCSF（豚熱）が発生した際にも、養豚農家の防疫体制の強化のため、消毒施設や野生動物に対する防護柵の設置、死亡家畜用の保冷施設整備のための補助事業などに積極的に取り組み家畜伝染病のまん延防止に御尽力されました。

さらに、令和2年3月から猛威を振るいパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症の拡大による消費の落ち込みや外食産業や観光産業などをはじめとする経済活動の縮小が畜産経営にも大きな影響がでています。特に酪農や肉用牛経営では、畜産物価格の下落が経営を圧迫したことから、生産基盤の強化や販売促進のための支援に積極的に取り組み畜産経営の安定に寄与されるとともに畜産会の円滑な業務運営に御尽力されました。

その後任といたしまして、私が会長を務めることとなりました。微力ではございますが、今まで以上に会員の皆様、関係各機関の皆様の御支援・御指導をいただき、前会長が築かれました本県畜産及び畜産会の更なる発展のために努力いたしますのでよろしくお願いいたします。

ところで、最近の畜産を巡る諸情勢でございますが、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、2020東京オリンピック・パラリンピックが2021年へ延期されました。

また、諸外国からの来訪者の入国制限などによりインバウンドによる経済効果が失われ、さらに、国内における緊急事態宣言や外出自粛などによる消費の落ち込みから畜産物価格が低迷しており、畜産物の価格下落の補てんの充実が必須です。また、クラスター事業や生産基盤強化のための繁殖雌牛の導入支援などが急務となっております。

このため、国産畜産物再生産の持続的経営のため、畜産物価格安定制度の充実、クラスター事業の予算確保、家畜伝染病防疫強化支援などについての要請を行っているところです。

現在の埼玉県内の畜産農家は、戸数では、酪農が約180戸、肉用牛が約145戸、養豚が約93戸、養鶏が約72戸となり合計でも500戸を切っております。また、家畜頭羽数は、乳牛が約8千300頭、肉用牛が約1万7千頭、豚が約9万4千頭、採卵鶏が約298万羽となっております。

埼玉県の人口は約734万人、県産畜産物が県民の食卓を賄うには大変少ない量ですが、消費地の隣で生産しているということは、生産者は自分の生産物が身近な人においしく食べていただけるということです。

消費者の皆様は、安全安心そして新鮮な畜産物が美味しく味わえるという、地産地消により、生産者は畜産物の品質向上に日々努力し、生産に励んでいます。

グローバル化をもたらすのは「恵み」だけではなく、家畜の病気も国際化し、口蹄疫、CSF（豚熱）ASF（アフリカ豚熱）、高病原性鳥インフルエンザなどの悪性伝染病は、畜産農家にとって、最も警戒しなければならない伝染病です。また、配合飼料や生産資材価格の高止まり、効率的施設導入のための投資や労働力不足など、畜産農家は苦しい経営を強いられる状況が続いております。

都市近郊で消費者との共存を図りながら畜産物を生産することは、多くの問題を乗り越えなければならないのが現状です。私ども畜産会におきましては、関係各位の御支援、御指導の下に、皆様との連携を一層強め、県や全国団体の事業を積極的に活用し、役職員の総力を挙げまして、本県畜産業の発展のために取り組む所存であります。

今後とも、本会に対する絶大な御支援・御指導を重ねてお願いいたしまして、会長就任のごあいさつとさせていただきます。



農林部長就任の御挨拶

埼玉県農林部長
強瀬道男

本年4月より、農林部長を務めております強瀬道男でございます。

一般社団法人埼玉県畜産会の皆様には、本県農業、とりわけ畜産の振興に多大なる御尽力、御協力をいただき、心からお礼を申し上げます。

今年度に入り、新型コロナウイルス感染拡大の影響によるイベントの中止や外出の自粛により、花きや茶、和牛肉などの売上が大きく落ち込みました。

県では6月補正予算にて、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた農畜産物を対象にインターネットを活用した販売キャンペーンや、学校給食に県産牛肉を提供する事業を実施することといたしました。

畜産物については、このほかにも、6月の「牛乳月間」を活用した県産牛乳の消費拡大キャンペーンや、県と包括的連携協定を締結している企業と協力した黒豚の販売促進を実施するなど、様々な機会を活用して生産者と消費者のマッチングを支援することで、畜産振興に取り組んでいるところです。

残念ながら、今のところ新型コロナウイルス感染症は終息の見込みが立っておりません、このため、今後しばらくはウイルスと共存しながら、社会経済活動を行っていく必要があります。

コロナ禍においても、埼玉の農林畜産業が発展するよう、関係者の連携によりこの難局を乗り越えていきたいと考えております。

一方、昨年9月に本県でも発生が確認された豚熱につきましては、ワクチン接種や関係の皆様御協力により、農場への野生動物の侵入防止を強化するなど、引き続き対策の強化を行っています。

しかし、野生いのししの陽性事例は、依然として確認されており、対策として経口ワクチンの散布を継続しています。

また、アフリカ豚熱が近隣諸国で確認されており、日本への侵入が危惧されているところです。

本年7月1日には家畜伝染病予防法が改正され、飼養衛生管理基準が見直されたことにより、農場の衛生対策が強化されました。

豚熱などの家畜伝染病の発生を防止するためには家畜伝染病を農場に入れないことが重要です。畜産農家の皆様及び畜産関係者の皆様には、引き続き飼養衛生管理基準の順守をお願い申し上げます。

今後とも家畜防疫対策をはじめ、畜産業の生産性の向上や生産基盤の強化など埼玉畜産業の振興に全力で取り組んでまいりますので、会員の皆様の一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人埼玉県畜産会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を心から祈念申し上げまして、就任の挨拶とさせていただきます。

畜産安全課長就任の御挨拶

埼玉県農林部畜産安全課長
野澤裕子

本年4月に畜産安全課長に就任いたしました野澤裕子でございます。どうぞよろしく申し上げます。

一般社団法人 埼玉県畜産会会員の皆様には、日頃から本県の畜産振興に御尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

本年の新型コロナウイルス感染症の拡大は学校の休校や外出自粛など、私たちの仕事や生活にも様々な影響を与えています。畜産物も同様に影響を受けており、特に牛肉は需要の大幅な減少に伴い枝肉価格が下落しております。このため、県では国庫事業を活用し、学校給食への県産牛肉の提供を9月から実施いたします。この機会に多くの子供たち美味しい県産牛肉の味わってもらい、併せて埼玉県の畜産を紹介するリーフレットを配布することで県産畜産物の消費拡大につなげていきたいと考えています。コロナ禍にあっても本県畜産業への影響をできる限り回避できるよう事業に取り組んでまいります。

さて、昨年9月に県内で36年ぶりに豚熱（CSF）が発生いたしました。当時、私は熊谷家畜保健衛生所に所長として勤務しており、11月までに相次ぐ5件の発生の防疫対応にあたりました。発生農場の殺処分等に必要の獣医師数の不足や台風19号の影響など、度々困難な局面がありましたが、多くの皆様のおかげをもちまして、防疫措置を完了させることができました。貴会をはじめ畜産関係団体の皆様の御理解と御協力をいただいたことに、改めて感謝申し上げます。

現在、豚熱につきましてはワクチンの全頭接種開始以降、県内の養豚農家での豚熱の発生は抑えられておりますが、野生いのししでの感染が確認される地域は、むしろ拡大する傾向にあります。野生いのしし対策として、昨年11月から経口ワクチン散布を実施していますが、引き続き散布地域を拡大して、豚熱ウイルスの低減を図っていきます。

また、アフリカ豚熱をはじめ、鳥インフルエンザ、口蹄疫についても近隣諸国で発生が続いていることから、国内での発生が強く懸念されております。今後は、豚熱の発生経験も踏まえ、特定家畜伝染病の発生に備えて一層迅速な防疫対応を実施できるような体制を構築してまいります。

さらに7月1日には家畜伝染病予防法が改正、施行され、飼養衛生管理基準も強化されています。特定家畜伝染病侵入防止のために畜産農家の皆様には飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。

今後とも本県の畜産振興に微力ながら尽力して参りますので、引き続き、皆様の御支援、御協力をお願いいたします。私の就任のあいさつとさせていただきます。

一般社団法人埼玉県畜産会 第65回通常総会開催される

令和2年6月5日、午後1時30分から埼玉県農林公園（深谷市）において、当会の第65回通常総会が来賓並びに会員の出席のもとに開催されましたので概要を報告します。

今回の総会につきましては、新型コロナウイルス感染症対策の基本となります密を極力避けながらの開催となり、出席者も最小限の人数として開催しました。

吉澤正則副会長の開会、坂本富雄会長の挨拶の後、埼玉県農林部畜産安全課田中誠副課長から来賓のご挨拶を賜りました。

議長には、坂本会長が選任され、議事録署名人に高田茂埼玉県酪農協会会長及び加藤健一埼玉県養豚協会会長を選任、書記には本会の金子総務部長及び鈴木総務部主幹の両名を任命し、議事に入りました。

まず、定款第34条により「令和2年度事業計画及び収支予算について」を報告後、以下の議案を審議しました。

第1号議案 令和元年度事業報告・収支決算及び公益目的支出計画実施報告書の承認について

第2号議案 令和2年度会費の賦課・徴収方法の決定について

第3号議案 令和2年度借入金最高限度額並びに借入先・預入先金融機関の決定について

第4号議案 令和2年度役員報酬額の承認について

第5号議案～20号議案

任期满了に伴う役員の改選について

第1号議案の令和元年度事業報告・収支決算及び公益目的支出計画実施報告書の承認を可決した後、埼玉県浦和競馬組合並びに埼玉県騎手会が家畜伝染病（CSF）により埼玉県内の養豚農家に甚大な被害があったことから、家畜伝染病対策（CSF）支援金レースによる売上金の一部及び募金による支援金を畜産農家に支援したことが報告されました。

以降の各議案とも原案どおり可決承認され、議長は、総会での審議が無事終了したこと、かつ協力をいただいたことに謝辞を述べ降壇しました。最後に閉会に当たり、高橋三男副会長より、総会の無事終了の謝辞並びに引き続き本会運営への協力依頼があり、総会は終了となりました。

新会長選任の令和 2 年度臨時総会開催される

令和 2 年 8 月 6 日、午前10時30分からホテルヘリテージ（熊谷市）において、当会の令和 2 年度臨時総会が開催されましたので概要を報告します。

今回の臨時総会につきましても、新型コロナウイルス感染症対策を基本とし、密を極力避けながら、出席者も最小限の人数として開催しました。

松本邦義理事の開会、坂本富雄会長の挨拶の後、埼玉県農林部畜産安全課野澤裕子課長から来賓のご挨拶を賜りました。

議長には、坂本会長が選任され、議事録署名人に高田茂埼玉県酪農協会会長及び植井敏夫埼玉県肉用牛経営者協会会長を選任、書記には本会の金子総務部長及び鈴木総務部主幹の両名を任命し、議事に入りました。

臨時総会では 6 月 5 日の通常総会の後に構成団体選出の会長を含め 6 名の役員の辞任が生じたことにより役員の補欠選任が行われ、全農埼玉県本部運営委員会副会長の根岸信一郎氏、埼玉県農業協同組合中央会専務理事の小池和明氏、埼玉県農業共済組合副組合長の福田和明氏、埼玉県養豚協会会長の上原章男氏、理事会推薦の岩田信之氏の 5 名が新理事に、埼玉県信用農業協同組合連合会常務理事の島寄進氏が監事に就任し、理事会において根岸信一郎氏が新会長に選出されました。

新たな会長の下、役職員一丸となり事業を推進してまいります。なお、畜産会の新役員名簿は後掲されておりますのでご覧ください



開会（松本理事）



会長挨拶（坂本会長）



来賓祝辞（野澤畜産安全課長）



互選会報告（高橋副会長）



新会長挨拶（根岸会長）



坂本前会長に花束贈呈

令和2年度 主要事業の概要

令和2年3月2日開催の本会の役員会において令和2年度事業計画を決定しました。

日本国内全土で新型コロナウイルスの感染拡大を受け、日本経済全体が落ち込んでいる中、畜産業界においても、畜産物消費の落ち込みをうけ、価格低迷に苦しんでいます。このような中、国において新型コロナウイルス対策緊急支援事業として、様々な事業が対策され実施することになりました。本会としても畜産経営安定のため関連対策事業を実施し、役職員一丸となって畜産振興に努めてまいります。

体系別事業計画

1 経営支援対策

(1) 生産技術向上対策

畜産経営の安定及び生産性の向上を図るために、経営診断支援指導を実施するとともに、畜産環境整備対策などを行う。

畜産経営技術指導業	畜産経営技術支援指導研究会の開催・畜産農家の経営診断指導・経営セミナーの開催等、牛群の能力向上及び生産性向上指導・検定推進指導	県 地方競馬全国協会
経営革新指導事業	クラスター協議会・対象農家の支援・指導	県
繁殖雌牛ゲノム情報収集事業	和牛子牛に資質向上を図る繁殖雌牛ゲノム検査の実施	県
畜産酪農生産力強化緊急対策事業 埼玉県酪農生産力強化対策協議会 (酪農クラスター)	酪農経営における授精卵移植・性別別技術を活用した優良な乳用後継牛の確保、和牛授精卵を利用した肉用子牛の生産拡大	中央酪農会議
畜産クラスター事業	クラスター事業（機械導入・リース事業）の円滑な推進を図り、要望等の取りまとめを行う。	中央畜産会
畜産ICT事業・楽酪GO事業	酪農・肉用牛農家の労力軽減のための施設・機械導入の補助	中央畜産会
肉用牛経営安定対策補完事業	肉用牛経営の担い手となる後継者を中心に肉用繁殖雌牛の増頭支援を行う。	農畜産業振興機構
生産基盤拡大加速化事業	畜産クラスター計画作成の肉用牛経営体を中心に肉用繁殖雌牛の増頭支援金を交付する	全国肉用牛振興基金協会
畜産環境整備機械貸付事業	糞尿処理機械・施設等の貸付事業	県・畜産環境整備機構

(2) 経営安定対策

肉用子牛・肉用牛・肥育肉豚等の価格補てん事業やその他の関連助成対策事業を実施し経営の安定を図る。

肉用牛肥育経営安定交付金制度	肉用牛経営安定のために、基金を設け肉用牛肥育経営の収益性が低下した場合補てん金を交付する。	農畜産業振興機構
肉用子牛生産者補給金制度	農林水産大臣が告示する肉用子牛の平均販売価格が保証基準価格を下回った場合に生産者補給金を交付する。	農畜産業振興機構
養豚経営安定対策事業	養豚経営安定対策事業の説明会の開催等を行う。	農畜産業振興機構
鶏卵生産者経営安定対策事業	日本養鶏協会にて実施する鶏卵価格補てん事業及び成鶏更新・空舎延長事業の実施に当たっての農家の事務代行等を行う。	日本養鶏協会
鶏卵価格安定対策事業	鶏卵価格の低迷時における鶏卵生産農家の経営維持を図るため、事業参加者に対し、補てん財源のための生産者積立金の一部を助成する。	県

(3) 家畜改良対策

家畜改良の増進を図るため、家畜登録事業（乳牛・和牛・豚）を実施するとともに、牛凍結精液や受精卵の配布等を行う。

家畜登録事業	乳牛・和牛・種豚の登録を行い、能力資質の向上を図る。	日ホ・全和・日豚
牛凍結精液配布事業	計画 10,000本の配布	家畜改良事業団他

2 安心・安全畜産物の提供**(1) 家畜防疫体制確保対策**

安全・安心の畜産物を生産・提供するための家畜疾病防疫対策や家畜衛生指導等を行う。

また、万一の悪性伝染病等の万一発生に備えての互助基金対策等も実施する。

牛疾病検査円滑化推進対策事業	死亡牛の収集、輸送及び処理、BSE検査の円滑な実施を推進	国
家畜生産農場衛生対策事業	ヨーネ病対策、ELB対策、BVD-MD対策、農場飼養衛生管理強化対策	国
家畜防疫互助基金支援事業	口蹄疫・CSF・ASFの発生に備え、互助補償を行う体制を整備し、淘汰家畜の焼却・埋却等の費用と経営再開の支援	農畜産業振興機構
馬飼養衛生管理特別対策事業	馬の飼養者、関係団体を組織化し自衛防疫体制を確立	中央畜産会
家畜防疫・衛生指導対策事業	防疫体制の強化、発生予防、防疫演習の実施	中央畜産会
馬伝染性疾病防疫推進対策事業	馬インフルエンザワクチン、馬鼻肺炎ワクチンの接種を支援する。	中央畜産会

(2) 消費者信頼確保対策

県内畜産物の安心安全をPRするとともに販路開拓などを実施し、また農業イベント・畜産イベントに積極的に参加し畜産物の消費拡大を図る。

畜産関係団体調整機能強化事業	畜産関係団体連絡調整・畜産女性ネットワークの会等を通して畜産物の消費拡大を図る。	中央畜産会
畜産女性経営者育成強化事業	畜産経営に対する女性の参画と地位向上を目指す。	中央畜産会
浦和競馬支援畜産振興事業	来場者に県内畜産物のファンサービス等を行う。	浦和競馬組合
畜産物消費拡大事業	彩の国畜産物の販売促進や安心安全のためのシール発行等を行い販売・消費拡大を図る。	独自

3 その他畜産振興に寄与する取り組み**(1) 生産者等支援対策**

県内の畜産経営体維持存続のため、様々な課題の相談の窓口となり、生産者への支援に努める。

(2) 畜産関係団体の事務受託

本会内に事務局を置く畜産関係任意団体（11団体）の活動を支援し、県内畜産の振興に努める。

4 令和2年度の新型コロナウイルス関連緊急支援対策事業

肥育牛経営等緊急支援特別対策事業	牛枝肉価格低下により経営悪化が懸念される畜産農家に出荷頭数に応じて交付金を交付する。	中央畜産会
優良子牛生産推進緊急対策事業 (子牛補給金制度加入農家)	肉用子牛の全国平均価格が発動基準価格を下回った場合に、経営改善に取り組む生産者に対し奨励金を交付する。	農畜産業振興機構
経営継続補助金 伴走支援事業	新型コロナウイルス感染症対策等を講じた農家に補助金を交付する。	全国農業会議所

事務局を畜産会内に置く

和牛肉等販売促進緊急対策事業	枝肉価格が下落している県産和牛肉等を学校給食実施希望校に提供することで、新たな需要喚起を図り、本県和牛生産農家等への影響を回避する。	埼玉県学校給食用牛肉供給協議会
----------------	--	-----------------



令和元年度主要事業の実施概要

関係者各位のご支援、ご協力のもと、下記の通りの事業成果を上げる事ができましたので、主要事業の報告を致します。

1 経営支援対策

(1) 生産技術向上対策

○畜産経営技術指導事業（県）

畜産経営体の維持・安定を図るために、生産技術・財務管理などについて助言支援を行い経営の向上を図った。

<経営診断指導実績>

指導内容	実績					備考
	酪農	肉用牛	養豚	養鶏	合計	
経営診断に基づく改善指導	2	0	1	0	3	
経営管理技術指導	19	9	0	0	28	
生産技術指導	37	12	0	0	49	
フォローアップ指導	1	0	1	0	2	
合計	59	21	2	0	82	

○畜産酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター・機械導入事業）（中央畜産会）

県内の畜産クラスター協議会の機械導入事業に係る事業参加要望書を取り纏め中央畜産会に提出した。

3クラスター協議会 3物件

(2) 経営安定対策

肉用子牛・肉用牛事業やその他の関連助成対策事業を実施し経営の安定を図った。

○肉用牛肥育経営安定交付金制度（農畜産業振興機構）

ア 補填金交付契約者件数（平成31年4月1日現在）：55件

イ 積立金管理状況

（令和2年3月31日）（単位：頭、円）

種別	事業対象登録頭数	生産者負担金	負担金交付額	年度末残高
肉専用種	6,148	36,894,000	1,334,868	43,461,341
交雑種	2,157	36,669,000	542,726	45,408,501
乳用種	2,369	45,011,000	24,266,563	34,504,858
計	10,674	111,574,000	26,144,157	123,374,700

ウ 交付金交付実績

令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）（単位：頭、円）

区分	延交付人数	交付頭数	交付金交付総額	平均交付金単価
肉専用種	64	897	9,907,649	11,045
交雑種	52	424	4,343,999	10,245
乳用種	74	1,905	76,838,779	40,335
計	190	3,226	91,090,427	28,236

○肉用子牛生産者補給金制度（農畜産業振興機構）

ア 個体登録頭数及び生産者積立金造成額（平成31年4月～令和元年12月）（単位：頭、円）

品 種 区 分	登録頭数	積立金単価	積立金額	負 担 内 訳		
				機 構	県	生産者
黒毛和種	68	1,200	81,600	40,800	20,400	20,400
褐毛和種	0	4,600	0	0	0	0
その他肉専	0	12,400	0	0	0	0
乳用種	206	6,400	1,318,400	659,200	329,600	329,600
乳用交雑種	622	2,400	1,492,800	746,400	373,200	373,200
計	896	-	2,892,800	1,446,400	723,200	723,200

イ 補給金交付頭数及び補給金総額 令和元年度（平成31年1月～令和元年12月分）（単位：頭、円）

区 分	交付頭数	補給金単価	補給交付金額
黒毛和種	0	0	0
褐毛和種	0	0	0
その他肉専用種	0	0	0
乳用種	0	0	0
乳用交雑種	0	0	0
合 計	0	0	0

※令和元年度（平成31年1月～令和元年12月）においては、子牛価格が高値で推移したため、生産者補給金の発動には至らなかった。

(3) 家畜改良対策

○家畜登録事業（日本ホルスタイン登録協会、日本養豚協会、全国和牛登録協会）

家畜の改良増殖を推進して優良種畜を確保し、生産効率向上のため、家畜改良増殖法に基づき、登録3団体の委託団体として登録業務の推進を図った。

<家畜登録実績>

(単位：件・%)

ホルスタイン種				種 豚				和 牛			
区 分	計画	実績	対計画	区 分	計画	実績	対計画	区 分	計画	実績	対計画
血統登録	330	394	119.4	種豚登録	100	164	164.0	子牛登記	1,000	1,353	135.3
移動証明	30	2	6.7	繁殖産子産肉	40	0	0	基本登録	150	254	169.3
牛群審査	80	154	192.5	子豚登記	170	141	82.9	移 動	30	56	186.7
体型調査	60	60	100.0	子・種移動	40	10	25.0	遺伝子型他	320	342	105.9
検定証明	300	457	152.3	そ の 他	20	91	455.0	そ の 他	-	19	-
そ の 他	0	8	-	黒豚証明他	130	45	34.6				
計	800	1,093	136.6	計	500	451	90.2	計	1,500	2,024	134.9

○牛凍結精液配布事業

乳牛及び和牛の改良を推進するため、家畜改良事業団等の窓口団体として凍結精液等の販売を行った。

<配布実績>

(単位：本・%)

区 分	前年実績	本年実績	対前年比	
家畜改良事業団	乳牛（一般）	235	157	66.8
	乳牛（性判別♀）	639	557	87.2
	和牛	5,479	6,113	111.6
ジェネティクス北海道	乳牛（一般）	656	534	81.4
	乳牛（性判別♀）	638	907	142.2
	和牛	633	541	85.5
十勝家畜人工授精所	乳牛（一般）	239	277	115.9
	乳牛（性判別♀）	52	39	75.0
	和牛	618	294	47.6
輸入精液・その他	910	564	62.0	
他県・その他授精所	1,153	988	85.7	
合 計	11,252	10,971	97.5	

2 安心・安全畜産物の提供

(1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業（農林水産省）

ヨーネ病、牛白血病、BVD-MD（牛ウイルス性下痢）の発生、流行防止対策等を推進し、家畜の損耗防止を図った。また、生産者による飼養衛生管理の向上に努めた。

ア ヨーネ病早期清浄化対策

ヨーネ病まん延防止等のための自主とう汰等を推進した。

イ 牛白血病感染拡大防止対策

牛白血病の検査等を推進した。

(ア) 浸潤状況の確認等	検査頭数	836頭
(イ) 吸血昆虫の忌避・駆除対策	対象農家	3戸
(ウ) 高リスク牛の自主淘汰	淘汰頭数	3頭

ウ BVD-MD対策

BVD-MDの検査等を推進した。

BVD-MD検査	検査頭数	109頭
----------	------	------

エ 農場飼養衛生管理強化対策

飼養衛生管理基準に基づき、獣医師等による衛生指導を実施した。

指導農家	16戸
------	-----

(2) 牛疾病検査円滑化推進対策事業（農林水産省）

BSEを早期に根絶し、生産者や消費者の安心と信頼を回復するために、死亡牛の円滑かつ適正な処理体制の確保と、その検査を推進した。

ア 協議会の開催 1回

イ 死亡牛輸送・処理費の補助

(ア) 対象死亡牛頭数	通常死亡牛（96ヶ月齢以上）	73頭
	48～96ヶ月齢未満の起立不能牛でBSE検査を行った牛	93頭

(イ) 補助金	輸送費補助：581,000円
	処理費補助：37,500円
	合計 618,500円

(3) 家畜防疫互助基金支援事業（農畜産業振興機構）

口蹄疫、豚コレラ等の海外悪性伝染病の発生に備えて、互助基金の加入促進を実施した。

また、豚基金加入者に対し、CSF発生に伴う基金の枯渇から、3倍額の追加徴収を行った。

<平成30年度生産者積立金状況> (単位：頭、円)

区 分	契約戸数	契約頭数	積立金額
養 豚	38	77,235	12,132,900
乳用牛・肉用牛	155	20,561	2,822,765

(4) 馬飼養衛生管理特別対策事業（中央畜産会）

馬飼養衛生管理体制の総合的な整備を図り、効果的な馬防疫を推進し、多様な飼養目的、飼養形態下にある馬衛生の向上に資するため、馬飼養衛生管理体制整備委員会・技術講習会の開催、地域馬獣医療実態調査を実施した。

ア 委員会の開催1回

イ 技術講習会の開催1回 演題：「馬の健康のための飼養管理」

ウ 地域馬獣医療実態調査 対象：馬飼養者76戸

(5) 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（中央畜産会）

競走馬以外の乗用馬等に対する馬インフルエンザワクチン接種及び、繁殖牝馬に対する馬鼻肺炎ワクチン接種の推進を図ることにより、発生リスク等の低減、清浄化を図った。

ア 馬インフルエンザワクチン接種

(ア) 接種頭数 251頭

(イ) 補助金 464,350円

(6) 家畜防疫・衛生指導対策事業（中央畜産会）

生産現場における家畜防疫体制の強化を図るため、伝染性疾病発生時の防疫対応を支援する防疫演習等を行った。また、競走用馬、輸入馬における馬伝染性貧血検査を推進した。

ア 防疫演習

(ア) 特定家畜伝染病（CSF）防疫演習（熊谷家保管内他） 107名参加 熊谷市 令和元年7月3日

(イ) 特定家畜伝染病（CSF、鳥インフルエンザ等）防疫演習（川越家保管内） 46名参加 川島町 令和2年2月4日

イ 馬伝染性貧血検査 検査頭数38頭

3 消費者信頼確保**(1) 畜産関係団体調整機能強化事業（中央畜産会）**

組織の活性化を推進するため、畜産団体の支援を図るとともに、浦和競馬場において支援活動を行い、地方競馬の発展を支援した。

ア 仲間づくり 1回

イ 浦和競馬支援 10回

(2) 畜産女性経営者育成強化事業（中央畜産会）

畜産経営の中核的な役割への女性参画の拡大及び女性の地位向上を目指し、女性自身の経営者能力の向上等を図った。

ア 農業簿記研修会 令和元年9月11日 1回

イ 畜産女性POP研修会 令和2年2月12日 1回

(3) 畜産振興事業（県浦和競馬組合）

浦和競馬支援のため、競馬場内での畜産物の販売等ファンサービス活性化対策及び場外の畜産イベントや広報誌による宣伝活動を行った。

(4) 畜産物消費拡大事業（会独自事業）

彩の国畜産物の販売促進や安全安心のためのシール発行及び畜産イベント等に参加し、県内畜産物の消費拡大を図った。

ア 2019彩の国食と農林業ドリームフェスタの開催に合わせ「おいしさいっぱい畜産フェア」を同時開催した。

令和元年11月16～17日 草加市「まつばら綾瀬川公園」

(5) 馬事畜産振興諸活動（馬事畜産振興協議会）

埼玉県馬事畜産振興協議会を開催するとともに、浦和競馬において、冠レースを開催した。

(6) 畜産振興諸活動（会独自事業）

関係機関の審議会、協議会等に本会の役員が委員、役員等として就任し、本県畜産の振興に寄与した。また、本会広報誌「畜産埼玉」を2回/年発行し、会員及び関係機関に配布した。

4 畜産関係団体の事務受託

本会業務に関連のある団体の事務局を受託し、各団体の事業計画に基づき、諸事業の円滑な推進に努めた。

- (1) 埼玉県酪農協会・・・・・・・・・・・・・会員：団体12、個人68、賛助16
全酪新報の配布
- (2) 埼玉県肉用牛経営者協会・・・・・・・・・・・・・会員：団体 6、個人48、賛助 6
研修会、セミナー、その他
- (3) 埼玉県養豚協会・・・・・・・・・・・・・会員：団体 7、個人48、賛助 6
埼玉県養豚経営安定対策事業、研修会、青年部活動、CSF対策、その他（JPPA業務）
- (4) 埼玉県養鶏協会・・・・・・・・・・・・・会員：団体 9、個人17、賛助42
研修会、青年部活動、日鶏協関東甲信越養鶏大会、その他
- (5) 埼玉県養蜂協会・・・・・・・・・・・・・会員：個人130
ハチミツ品評会、ハチミツ即売会、研修会、養蜂物資斡旋窓口、その他
- (6) 埼玉県畜産技術振興会・・・・・・・・・・・・・会員：団体11、個人127（繁殖部会127）
技術研修会、受託事業、改良増殖事業、技術発表全国大会の参加、その他
- (7) 埼玉県畜産懇話会・・・・・・・・・・・・・会員：団体20
畜産情勢の情報交換、消費促進活動、畜産施策の要請、その他
- (8) 畜産女性いきいきネットワーク埼玉・・・・・・・・・会員：個人21、団体 5
情報交換、消費者との交流、食育、後継者育成支援、その他
- (9) 埼玉県牛群検定組合・・・・・・・・・・・・・会員：個人23
研修会・勉強会の開催、その他
- (10) 埼玉県粗飼料利用研究会・・・・・・・・・・・・・会員：個人65、団体 9、賛助 8
会報「ふぉーれーじ」の発行、研修会・検討会の開催
- (11) 埼玉県秩父高原牧場利用者互助会・・・・・・・・・会員：個人40、団体 2
牧場預託牛の事故等に対し補助金の交付、衛生対策の実施
- (12) 埼玉県CSF感染拡大防止対策協議会・・・・・・・・・県11、市町村22、民間団体 4
野生イノシシにおけるCSFウイルス拡散防止を図るための、経口ワクチン散布・回収及び浸潤状況調査

埼玉県からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症感染防止策の定着に向けた取組について

新型コロナウイルス感染症は、8月に入ってから感染の拡大が続いており、残念ながら終息の見込みがたっておりません。感染拡大の予防と社会経済活動の両立を持続的に可能とするためには、事業者において自主的な感染防止のための取組を進める必要があります。

県では、農林水産省が作成した、「事業継続のための新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト」を家畜保健衛生所から畜産農家へ周知しております。畜産農家の皆様並びに畜産関係者の皆様におかれましては、このチェックリストを活用して、農場における感染症予防対策の確認をお願いします。

畜産は、毎日の飼養管理を行う必要があるため、作業者が新型コロナウイルスに感染しないことが重要です。各農場で以下の十分な感染予防対策を確実に実行しましょう。

1 一人ひとりの感染予防対策の徹底

- ①ソーシャルディスタンスの確保
- ②症状がなくてもマスクの着用
- ③水と石けんで十分な手洗い

2 業務継続のための感染予防対策

農場における感染予防の対応等については、「畜産事業者に新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び事業継続に関する基本的なガイドライン」に基づき、実施・検討をお願いします。

(ガイドライン https://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/pdf/gl_tik.pdf)

3 発生時を想定した業務継続の準備

作業者が感染した場合には、迅速に対応する必要があります。感染者等が発生した場合を想定して、以下の準備をお願いします。

- 発生時に、どこに連絡したらよいか事前に確認しましょう
- 作業支援者に作業をお願いするにあたり、作業ポイントを書き出しておきましょう。

真夏の時期は、熱中症対策も重要です。ソーシャルディスタンスが取れている場合は、マスクをはずす、のどが渇いていなくてもこまめに水分をとる等の対策をお願いします。

事業継続のための新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト

日頃の感染予防の取組が農場を守ります！

農場における感染予防対策をチェックしてみましょう
不十分な項目は、各農場において実施体制の整備をお願いします

項目	チェック	備考
1 常時の予防対策 体温の測定と記録		体調不良の場合は、場所長に連絡
マスクの着用		夏場は熱中症に留意 (屋外で人と少なくとも2m以上確保できる場合はマスクをはずす)
手洗い・手指の消毒		こまめに手洗い・手指の消毒を実施 (出勤時、トイレ使用後、作業場への入場時、作業終了後など)
頻繁に触れる箇所の拭き取り清掃		通常の清掃に加えて、消毒用アルコール等で人がよく触れる箇所を拭き取り清掃 (ドアノブ、スイッチ、手すり、テーブル、トイレの流水レバーなど)
不要・不急の来場者の制限		畜舎等の畜産関連施設等への部外者の立ち入りを最小限とし、来場者を受け入れる場合は日時や名前等を記録
人が集まる場所の換気の実施		こまめに換気を実施 (2方向の窓を1回数分間程度全開。毎時2回以上は換気を実施)
2 農場における予防対策 農場内での連絡体制の構築		責任者・担当者の明確化と連絡体制の確認 連絡先リストの作成・共有
作業の固定化・グループ化		発生時に業務継続に支障が生じる数の濃厚接触者が出ないよう、作業体系・配置・動線等を検討
作業員同士の距離の確保		作業時における作業員同士の距離の確保(2mを目安(最低でも1m)) できる作業体系・配置・動線等を検討
共用機材等の特定と清掃・消毒		できる限り機材等の共用を避ける (共用せざるを得ない場合には、こまめに清掃・消毒を実施)
休憩・打ち合わせ時における三密の回避		時間・場所をずらした休憩の取得 ホワイトボードやSNS等を活用した作業指示・確認の実施
3 発生時の対応 発生時の連絡体制の確認		保健所、生産者団体、関連事業者、行政等々への連絡体制を事前に確認・共有
重要な作業ポイントの洗い出し		発生時の支援作業員が円滑に作業ができるよう作業の重要ポイントを整理(可能であればマニュアル化)

参考:「畜産事業者に新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び事業継続に関する基本的なガイドライン」
(http://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/pdf/gl_tik.pdf)
「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunisu/se/sunyu/0000121431_coronanettysuu.html)

農林水産省

[お問い合わせ]

県庁畜産安全課 総務・畜産企画担当
電話 048-830-4189

「埼玉県LINEコロナお知らせシステム」の登録について

広第423-2号

令和2年7月9日

(一社) 埼玉県畜産会
会長 坂本 富雄 様

埼玉県知事 大野 元裕 (公印省略)

埼玉県の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の実施につきましては、県民の皆様、そして、事業者の皆様へ御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、各団体の皆様には、業種別に団体等のガイドラインを「彩の国『新しい生活様式』安心宣言」として自主的に作成していただき、その宣言に基づく対策を講じていただいております。併せて、御礼を申し上げます。

さて、5月25日の緊急事態宣言の解除後、6月17日に施設使用停止等の協力要請を全て解除しました。また、イベントの開催制限についても、7月10日にはコンサートなどのイベントにおける観客の上限を、5,000人以下かつ屋内では収容率50パーセント以下に緩和する予定など、段階的に進めているところです。

そこで、感染拡大の防止と社会経済活動の両立を図る取組として、この度「埼玉県LINEコロナお知らせシステム」を、7月10日から開始いたします。

このシステムにより、これまで感染経路の追跡が困難であった不特定多数の方が利用する店舗、施設、イベント等で、感染者と同じ時間にその場所にいた方へのアプローチが可能となります。そうした方々が、いち早く専門の窓口にご相談できるようになるため、感染拡大の防止に大変有効であります。

各団体の皆様には、このシステムへの登録を推進していただき、多くの事業者の方に参加していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

なお、システムの概要や利用の流れは以下のURLをご覧ください。

http://www.pref.saitama.lg.jp/a0701/covid19/line_corona-oshirase_top.html

また、登録方法につきましては、別添のとおりです。

【お問い合わせ】

県民生活部 調整担当：竹澤、田丸

電 話：048-830-2807

メール：a2840-21@pref.saitama.lg.jp

(別添)

- 1 埼玉県ホームページの「埼玉県LINEコロナお知らせシステム」の事業者用ページにある「QRコード発行フォーム」にアクセスします。

http://www.pref.saitama.lg.jp/a0701/covid19/line_corona-oshirase.html

- 2 QRコード発行フォームに必要な情報を入力し、利用規約に同意します。

【事業者が、発行フォームに入力する情報】

- (1) 業態：(次から1つを選択)

「食事提供施設」「劇場等」「集会・展示施設」「博物館等」

「運動施設・遊戯施設」「遊興施設」「商業施設」

「屋内イベント」「屋外イベント」「避難所」「その他」

- (2) 利用規模数 (次から1つを選択)

「1～49人/日」

「50人～199人/日」

「200人～499人/日」

「500人～999人/日」

「1,000人～/日」

- (3) 施設・店舗・イベント名

- (4) 郵便番号、住所

- (5) 電話番号

- (6) メールアドレス

- 3 登録完了です。案内に従いQRコードをダウンロードします。
- 4 ダウンロードしたQRコードを印刷し、店舗等の入口など、利用者が分かりやすい場所、読み取りやすい場所に掲示してください。

タブレット端末等の画面に表示する方法も可能です。

- 5 来店者・利用者、従業員にQRコードの読み取りを呼びかけてください。

【システムに関するお問い合わせ】

担当：保健医療部感染症対策課企画宿泊・療養担当

電話：048-830-7502

家畜保健衛生所だより

川越家畜保健衛生所

～野生いのししの豚熱（CSF） 検査体制について～

埼玉県では令和元年9月13日から11月9日にかけて、県内の養豚場において5件のCSFの発生がありました。これを受けて、県では、野生いのししにおけるCSFの浸潤状況を的確に把握するため、捕獲及び死亡いのししに対するサーベイランスを実施することになりました。サーベイランスの実施にあたり、川越家畜保健衛生所に野生いのしし専用の検査室（図1）を新たに整備し、令和元年12月から稼働しています。



図1 検査室

検査は狩猟者が採取した血液（死亡いのししの場合は、血液又は解剖し採材された臓器）を検体として用いて、抗原検査（図2）と抗体検査を行っています。検査の実施時は、検査の前後の消毒、検体等を扱う際には安全キャビネットを使用するなど、検査室内でのウイルスの汚染防止に努めています。

令和2年6月末までに秩父市、飯能市、本庄市、日高市、越生町、東松山市、小川町、ときがわ町、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、神川町、美里町、寄居町、東秩父村（16市町村）で陽性の野生いのししが確認されています。（図3）

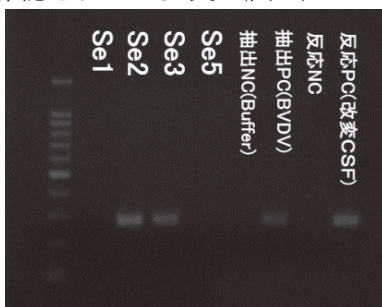


図2 抗原検査（PCR泳動像）



図3 野生いのししのCSF陽性確認市町村

所内での交差汚染を防止するため、以下の対策を実施しています。

1. 家保敷地内を、通常業務区域と野生いのしし業務区域に分け、庁舎の一部出入口、駐車場等を野生いのしし専用にする事により、人、物、車両の動線を交差させない。（図4）
2. 門扉内、駐車場に通常業務用公用車、野生いのしし業務用公用車それぞれ専用の消毒機を配置し、敷地出入時、駐車前に十分な車両消毒を実施する。（図4）
3. 野生いのしし業務専任者は、豚飼養農場には立ち入らない。
4. 専任者以外の職員が野生いのしし業務に従事した場合、当該職員は、従事後1週間は豚飼養農場へ立ち入らない。

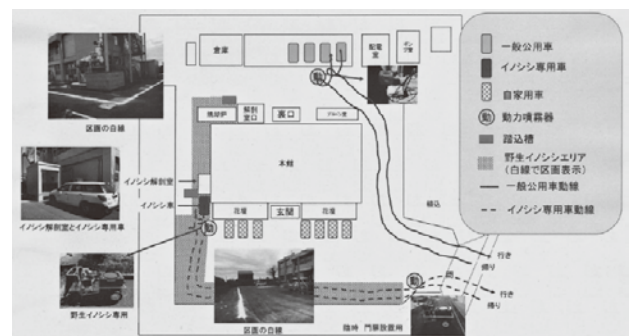


図4 交差汚染防止対策

野生いのししサーベイランスは猟友会、市町村を始めとした関係者の皆様の御協力のもと実施しております。今後とも御協力のほど、よろしくお願いいたします。

イベント・行事予定

1 第56回埼玉県乳牛共進会等について

7月8日に正副会長及び乳牛改良部会役員により協議をした結果、新型コロナウイルス感染症の終息の目途が立たないことから、今秋の開催は見送る事になりました。ただし、今後の状況によっては来春のBWショウを共進会とすることを含め、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら11月を目途に再度協議し判断する予定です。

また、酪農協会主催の婦人の集い・後継者の集いも同様に、状況を見ながらの開催判断となります。

なお、第20回関東地区ホルスタイン共進会は令和3年11月25日（木）～26日（金）千葉県で開催する予定です。

2 埼玉県養豚協会豚枝肉共進会について

令和2年11月6日開催予定の埼玉県養豚協会豚枝肉共進会については、7月29日に役員で協議をした結果、新型コロナウイルス感染症の終息の目途が立たないことから、中止になりました。

当協会といたしましては、引き続き協会の目的達成のために、養豚振興活動を実施する予定です。

3 埼玉県はちみつ品評会、即売会

令和2年11月6日開催予定の埼玉県はちみつ品評会、令和2年11月7日開催予定のはちみつの即売会については、6月19日に役員で協議をした結果、新型コロナウイルス感染症の終息の目途が立たないことから、中止になりました。

当協会といたしましては、引き続き協会の目的達成のために、養蜂振興活動を実施する予定です。

4 家畜防疫演習について

埼玉県と共催により次のとおり計画中です。

1回目 日時 令和2年10月29日（木）

場所 埼玉県県民活動総合センター

5 畜産物消費促進活動について

畜産会、各団体が参加していた「2020彩の国食と農林業ドリームフェスタ」（おいしさいっぱい畜産フェア同時開催）については中止になりました。

埼玉県畜産関係幹部職員名簿

(令和2年4月1日現在)

農 林 部

部 長 強 瀬 道 男
副 部 長 野 口 典 孝
副 部 長 小 畑 幹

食 品 安 全 局

局 長 根 岸 章 王

畜 産 安 全 課 (Tel 048-830-4170)

課 長 野 澤 裕 子
家畜衛生幹 加 藤 幸 彦
副 課 長 田 中 誠
主 幹 吉 田 徹
主 幹 伊 藤 麗 子
主 幹 高 桑 郁 子
主 幹 渡 辺 志 保

中央家畜保健衛生所 (Tel 048-663-3071)

所 長 丸 山 盛 司
副 所 長 河 合 正 子
担当部長 木 下 明 子
担当部長 多 勢 景 人
担当部長 武 末 寛 子

川越家畜保健衛生所 (Tel 049-225-4141)

所 長 堀 井 菜 摘 子
副 所 長 斉 藤 任 亮
担当部長 御 村 宗 人
担当部長 関 根 貴 司
担当部長 馬 場 未 帆

熊谷家畜保健衛生所 (Tel 048-521-1274)

所 長 黒 田 浩 之
副 所 長 斉 藤 良 幸
担当部長 山 品 恒 郎
担当部長 中 島 敏 行
担当部長 田 口 清 明

秩父高原牧場 (Tel 0494-65-0311)

場 長 宇 田 川 浩 一
担当部長 亀 田 光 澄

農業技術研究センター (Tel 048-536-0311)

所 長 片 貝 充

酪農、養豚・養鶏担当

室 長 田 中 美 貴

酪農担当 (Tel 048-536-0440)

担当部長 塩 入 陽 介

養豚・養鶏担当 (Tel 048-536-0440)

担当部長 福 田 昌 治

農業革新支援担当

部 長 大 宅 秀 史
部 長 佐 竹 吉 人

農業大学校 (Tel 048-536-6848)

校 長 佐 藤 正 行
教務主幹 高 田 新 一 郎

さいたま農林振興センター (Tel 048-822-2492)

所 長 須 永 真 理 子
担当部長 山 本 信 義

川越農林振興センター (Tel 049-242-1808)

所 長 岡 眞 司

東松山農林振興センター (Tel 0493-23-8532)

所 長 黒 澤 史 郎

秩父農林振興センター (Tel 0494-24-7211)

所 長 石 間 戸 芳 朗

本庄農林振興センター (Tel 0495-22-6156)

所 長 川 岸 正 人

大里農林振興センター (Tel 048-523-2812)

所 長 山 岸 典 夫

加須農林振興センター (Tel 0480-62-4771)

所 長 横 田 二 也

春日部農林振興センター (Tel 048-737-2134)

所 長 林 淳 一

浦和競馬組合 (Tel 048-881-1792)

副管理者兼事務局長 渡 辺 充
業務課長 田 中 哲 也
主 幹 益 岡 奈 津 樹
野田管理事務所長 原 裕
主 幹 宮 本 賢 一

・各所属とも主幹級以上を、また、農業技術研究センター、農業大学校、各農林振興センターにあっては所属長及び畜産担当職員、又は獣医師を、埼玉県浦和競馬組合にあっては副管理者及び獣医師の方々を掲載させていただきました。

一般社団法人 埼玉県畜産会 役員名簿

(令和2年8月6日現在)

職 名	出 身 団 体 ・ 職 名	氏 名
会 長	全国農業協同組合連合会埼玉県本部運営委員会副会長	根 岸 信一郎
副 会 長	埼玉県農業共済組合副組合長理事	福 田 和 明
副 会 長	(公社) 埼玉県獣医師会会長	高 橋 三 男
理 事	埼玉県農業協同組合中央会専務理事	小 池 和 明
理 事	(一社) 埼玉県配合飼料価格安定基金協会理事長	松 本 邦 義
理 事	市長会(熊谷市長)	富 岡 清
理 事	町村会(神川町長)	山 崎 正 弘
理 事	埼玉県調教師会会長	野 口 孝
理 事	埼玉県酪農協会会長	高 田 茂
理 事	埼玉県肉用牛経営者協会会長	植 井 敏 夫
理 事	埼玉県養豚協会会長	上 原 章 男
理 事	埼玉県養鶏協会会長	栗 原 桂 一
専 務 理 事	学識経験者	岩 田 信 之
常 務 理 事	学識経験者	藤 野 重 治
監 事	埼玉県信用農業協同組合連合会常務理事	島 寄 進
監 事	さいたま食肉市場(株)代表取締役	金 子 健 司

任期：令和2年6月～令和4年通常総会まで

(一社) 埼玉県畜産会事務分掌表

令和2年8月6日 現在

職・氏名	分 掌 事 務
常勤役員	専務理事 岩田 信之 会務運営統括、会報発行、畜産関係団体調整機能強化事業、農林公社、農業共済組合、農業会議、農業危害防止推進協議会、農場管理獣医師会、彩の国ふれあい牧場連絡協議会、ドリームフェスタ実行委員会 団体事務局（埼玉県畜産懇話会、埼玉県粗飼料利用研究会、埼玉県秩父高原牧場利用者互助会） 団体指導（担当団体：酪農協会、養豚協会、養蜂協会、肉用牛経営者協会） CSF感染拡大防止協議会（連絡調整）、学校給食用牛肉供給協議会（事務局長）
	常務理事兼事務局長 藤野 重治 (総括畜産コンサルタント) 事務局統括、各部との調整、総務・財務・経理等の総括、ドリームフェスタ総括、経営診断業務（全般） 団体運営費補助事務、酪農経営体生産性向上緊急対策事業（畜産ICT事業、楽酪GO） 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務（正）、障がい者支援事業（正） 団体指導（担当団体：畜産女性いきいきネットワーク埼玉、畜産技術振興会、養鶏協会）
総務部	総務部長 金子 修 (総括畜産コンサルタント) 部内統括、財務に関する事業の統括、経理事務・受託事業の進行管理、畜産振興補助事業、浦和競馬支援広報活動推進事業、馬事畜産振興補助事業、団体事務局（埼玉県養蜂協会（正））
	主幹 鈴木 智子 経理事務（正）、給与事務、福利厚生事務（正）、会務全般事務（正）、CSF感染拡大防止協議会（会計事務） 団体事務局（埼玉県養蜂協会（副））
	技師 秋庭 美鈴 (畜産コンサルタント) 経理事務（副）、文書事務（正）、会務全般事務（副）、鶏卵安定対策事業（正）、馬飼養衛生管理特別対策事業（正） 牛疾病検査円滑化推進対策事業（副）、高糖度飼料稲展示事業（正）、牛凍結精液配布事業（副）、登録業務（副） 経営診断業務
事業推進部	事業推進部長 兼務 金子 修 (総括畜産コンサルタント) 部内統括、経営診断業務（全般）、畜産経営技術指導事業（県・公庫）、畜産クラスター事業（機械導入）（副） 経営革新指導事業（副）、乳牛共進会（副）、団体事務局（埼玉県養鶏協会（副））、和牛繁殖導入クラスター
	主幹 堀口 静弘 (畜産コンサルタント) 登録業務（種豚・和牛）、牛凍結精液配布事業、繁殖雌牛ゲノミック評価推進事業、肉用牛経営安定対策補完事業 経営診断業務（酪農・肉用牛）、畜産環境整備機械貸付事業（機構）（検収業務等）、養豚経営安定対策事業 畜産いちばの管理、畜産近代化リリース事業（正）、乳牛共進会（副）、和牛繁殖導入クラスター 団体事務局（埼玉県養豚協会事務（正）、埼玉県肉用牛経営者協会事務（正））
	主査 渡辺 美知代 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務（副）、肉用子牛生産者補給金制度業務（正）、補給金制度運営適正化事業 運営体制支援事業、優良肉用子牛生産推進緊急対策事業、団体事務局（埼玉県養鶏協会事務（正））
	主査 木村 紀美江 (畜産コンサルタント) 牛凍結精液配布事業（総括）、乳牛登録、乳牛共進会（正）、後代検定事業（事業団・県）家畜改良推進事業、 牛群検定事業（正）、畜産経営技術指導事業（家畜改良推進）、経営診断業務（酪農） 畜産・酪農生産力強化緊急対策事業（受精卵等事業） 団体事務局（埼玉県酪農協会、埼玉県牛群検定組合、埼玉県畜産技術振興会（正））
	主査 松尾 奈緒美 予防接種事業、家畜生産農場衛生対策事業、牛疾病検査円滑化推進対策事業（正）、家畜防疫互助基金支援事業、 馬伝染性疾病防疫推進対策事業、家畜防疫・衛生指導対策事業（正）、馬飼養衛生管理特別対策事業（副） 団体事務局（畜産女性いきいきネットワーク埼玉事務（正））、畜産女性経営者育成強化事業
	技士 吉田 英樹 (畜産コンサルタント) 登録業務（種豚・和牛）（副）、牛凍結精液配布事業（副）、肉用牛肥育経営安定交付金制度業務（副） 埼玉県秩父高原牧場利用者互助会（会計）、家畜防疫・衛生指導対策事業（副）、経営診断業務 ホームページ・会内ネットワーク管理業務、肥育牛経営等緊急支援特別対策事業、会内事務全般補助
嘱託 堀越 一男 畜産クラスター事業（機械導入）（正）、経営革新指導事業（正）、総務関係事務（研修等）	
臨時職員	坂田 さゆり 会務事務全般補助、ブランド畜産物産地証明発行事務、牛群検定事業（副）

編集後記

今年は新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなり、社会全体が延期、中止や自粛モードに包まれています。2020東京オリンピック・パラリンピックが来年に延期され、春の花見に始まるイベントもことごとく中止になるといった、これまでに経験したことのない歴史に残る年となりました。

さらに、会議や面談、飲み会までもオンライン、リモートで開催するなど、生活様式も一変しています。

3月から学校が休校となり、給食用牛乳に使用する生乳が行き場を失って廃棄寸前まで行きました。

また、牛肉はインバウンドや外食産業で消費が伸びる見込みだった高級部位も新型コロナで消費が落ち込み牛肉価格全体が下落してしまいました。

また、100年に一度、50年に一度と言われる大雨による土砂崩れや河川の氾濫で人命が奪われるといったことが全国的に起こる時代ともなっています。

一方、なかなか明けなかった梅雨が、明けたら連日の猛暑。マスクをした顔が汗まみれになっています。

経験値以上のことが次々に起こる時代なのか、いつしかこれが普通のことになってしまうのではないかと思います、次代を担う子供たちに負担を強いることにならなければと思います。

先日、農水省は令和元年度の食料自給率・食料自給力指標について公表しましたが、食料自給率(カロリーベース)が38%で前年度を1%上回ったと発表されました。

改善はしたものの、依然低水準です。食糧自給率の向上が叫ばれて久しいものの、この傾向は変わることがありません。

もう一度、自国の食料を自国で賄うことを本気で考えなければならない時が来ていると思います。

当会といたしましても、本県畜産の振興に向け、生産者の支援はもちろん、生産者と消費者の架け橋となる活動も積極的に取り組んでまいりますので、会員並びに関係機関の皆様におかれましては、変わらぬ御指導・御助言をどうぞ宜しくお願いいたします。(岩田)



2020年度（令和2年度）南関東地方競馬開催日割（8月～3月）

8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
2021年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28			
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水

※JRA日程は変更の可能性あり ←は昼間開催 ⇄は夜間開催 ★印はダートグレード競走 ●印は重賞競走

南関東4競馬場オフィシャルサイト

オフィシャルホームページ(全レース実況・録画中継無料配信)
<http://www.nankankeiba.com/>
 (携帯) <http://www.nankankeiba.com/mobile/>
※通信料はお客様の負担となります。



浦和競馬オフィシャルサイト
<http://www.urawa-keiba.jp/>
 地方競馬情報サイト
<http://www.keiba.go.jp/>

SPAT4会員募集中! お申し込みは今すぐ!
会員限定PC&携帯電話 高画質ライブ配信
<http://www.spat4.jp/>
フリーダイヤル 0120-006-309 (開催日 昼間開催 10:00~17:00 ナイト開催 12:00~21:00)



テレホンサービス
 レース結果 実況中継
☎ 0570-011-555
☎ 0180-993-400
※PHS・一部の携帯電話からはご利用になれません。
 ※おかけ間違いにご注意ください。



浦和競馬

地方競馬全国協会からのご案内
(馬主になりませんか!)
 「地方競馬の馬主になりたい」という方は地方競馬全国協会までご連絡ください。地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。
 なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬情報サイト (<http://www.keiba.go.jp/>)でもご覧になれます。
 担当：審査部登録課 電話：03-3583-2142

